

# 本がいっぱい！



## Teen's 2023



### 『わたしのアメリカンドリーム』《Fヤ》

ケリー・ヤン／作 田中奈津子／訳 講談社

中国からアメリカに移住してきたミアと両親。職探しの末に見つけたのは、モーターの管理をする住み込みの仕事だった。管理人の仕事は事件ばかり起きるし、意地悪なオーナーのせいでお金も貯まらない。アメリカはフリー自由だなんて、誰が言い始めたんだろう！



### 『精霊の守り人』《YFU》

上橋菜穂子／著 新潮社

バルサはある日、新ヨゴ王国の第二皇子チャグムを救う。彼の体内には災害や飢餓を防ぐという精霊の卵が宿り、父の帝から命を狙われていた。バルサは、チャグムの用心棒としてやとわれることに。二人の逃亡と戦いの日々が始まった！シリーズ第一巻。

## TOKOROZAWA CITY LIBRARY

### 所沢市立所沢図書館



### 『太陽と月』《Fハ》

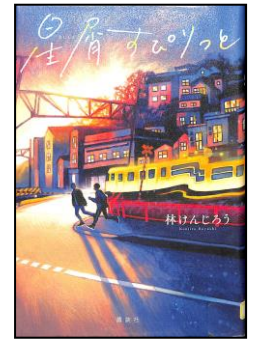
はらだみずき／著 小学館

つきと  
月人の夢はサッカー選手だが、最近自分のプレーに自信がない。入りたかったクラブチームの選抜テストで点取り屋の太陽に出会い、その実力に圧倒されてしまった。その後、月人がプロサッカー選手を育てるアカデミーの試験を受けに行くと、そこには太陽の姿もあり…。

### 『星屑すぴりっと』《YFH》

林けんじろう／著 講談社

イルキは、いとこのせいちゃんが大好き。せいちゃんが難病で無気力になっても、その気持ちは変わらなかった。ある日、イルキは、せいちゃんが「映画が観たい」と言うのを聞く。友達のハジメと調べると、その映画は京都まで行かないと観られない自主制作映画とわかり…。中学生二人だけの旅が始まる。



### 『ぼくたちはまだ出逢っていない』《Fヤ》

八束澄子／著 ポプラ社

ハーフで彫りが深い外見から、同じバスケット部の豪大に目をつけられ、暴力を振るわれる陸。母親が再婚し、家の中に自分の居場所がないように感じる美雨。出逢うことのなかったはずの二人は、壊れたものにふたたび命をふきこむ伝統技法「金継ぎ」を通じて知り合い…。

### 『あらしの前』《Fヨ》

ドラ・ド・ヨング／作 吉野源三郎／訳 岩波書店

オランダのいなかに住むファン・オールト家の人々の物語。平和で楽しい一家の生活は、ナチスのオランダ占領というあらしにより、一変してしまう。家族の一人を失ったオールト家の人々が戦後の混乱の中で新しい道を見出だしていく後編『あらしのあと』もある。



## 『その歌声は天にあふれる』《YFガ》

ジャミラ・ガヴィン／作 野の水生／訳 徳間書店

子どもを売って金を儲ける仲買人の息子であるミーシャクは、父のすることに疑問を抱く優しい心の持ち主だった。ミーシャクが思いを寄せるのは、天使のように美しい少女メリッサ。メリッサが領主の息子アレクサンダーの子どもを身ごもったのをきっかけに、少年たちの運命は動き始め…。



## 『この空のずっとずっと向こう』《YFナ》

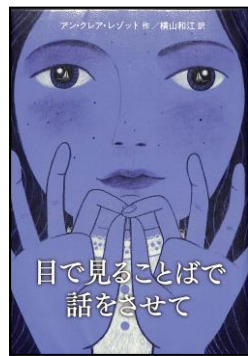
鳴海風／作 おとないちあき／絵 ポプラ社

医者の娘そらはある日、「天狗」といじめられていた男の子、大六を助ける。大六は蕃書調所に通う、侍の子だった。これからの日本に必要な学問である英語を学ぶ大六と交流するうちに、そらは、「空のずっとずっと向こう」にある欧州へ憧れを抱くようになり…。

## 『目で見ることばで話をさせて』《YFL》

アン・クレア・レゾット／作 横山和江／訳 岩波書店

メアリーは、耳が聞こえない。同じ島に住む人にも「ろう者」は多くいて、島の皆が手話を自在に使って話していた。ある日、島民に「ろう者」が多い事に興味を持った科学者に、メアリーは連れ去られてしまう。話す手段を奪われたメアリーは、島に戻る事ができるのか。



## 『星の王子さま』《Fサ》

サン=テグジュペリ／作 内藤濯／訳 岩波書店

サハラ砂漠のまん中に不時着した飛行士は、遠く小さな星からやってきた王子さまに出会いました。王子さまは、六つの星を旅して、七ばんめに地球に来たのです。「たいせつなこと」がなんなのか、知るために…。



## 『星ぼしでめぐるギリシア神話』《M》

百々佑利子／著 花松あゆみ／絵 岩波書店

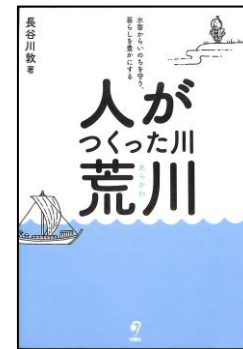
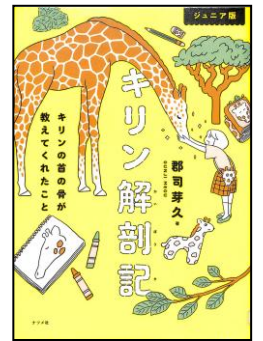
夏の夜空にかがやく小さな星座・いるか座。この星座は、ギリシア神話に登場する音楽家・アリオンを守ったイルカだといわれているんですって。(『アリオンとイルカ』) 星座に結びつけられてきた動物や英雄たちのいる世界をめぐってみませんか？

## 『ジュニア版 キリン解剖記

### 『キリンの首の骨が教えてくれたこと』《48》

郡司芽久／著 ナツメ社

哺乳類の首の骨は7個。長い首をもつキリンも、例外なくそうだとされてきた。しかし郡司さんは、キリンの首を支える「8個目の首の骨」があると考えるようになる。キリンが大好きな郡司さんの、解剖と研究の日々が始まった！



## 『人がつくった川・荒川』《Y51》

長谷川敦／著 旬報社

秩父の山奥を起点に埼玉県内を流れる荒川。昔はその名のとおり「荒れる川」で、洪水がひんぱんに起きていました。そこで400年前、人々は川の流れている場所を大きく移動し、川をつくり変えてしまったのです。水害を防ぎ、川を賢く利用するその知恵とは!?

## 『センス・オブ・ワンダー』《Y40》

レイチェル・カーソン／著

上遠恵子／訳 新潮社

夏の数ヶ月をメイン州ですごす著者は、甥のロジャーを連れ、夜の海辺へ出かける。嵐の夜の荒々しい興奮。幼いロジャーと心を解き放ち、自然の中で、発見の喜びと感動を分かち合う。

